

1941—1945 (昭和16～20年)

第2次世界大戦における太平洋戦争は、陸上だけとってみると世界の1/145、海も含めると地球全面積の1/3の範囲を舞台として繰り広げられました。この広大な地域の中で、戦争の新しい戦略、戦術、兵器が使用され、日本とアメリカだけでなくイギリス、フランス、オランダ、オーストラリア、ニュージーランド、カナダ、中国及び

ソ連も巻き込んで行われました。また、太平洋の島々の人々も強国の中間にさらされ、彼等の土地とその周辺海域で戦闘が展開されました。以下に続く説明は、太平洋戦争におけるいくつかの顕著な事柄に触れ、太平洋戦争国立歴史公園において記録に止どめられるべき人々と出来事を、理解するためのフレームワークを提供します。

1941年（昭和16年）

12月7日（ハワイ）
何の予告もなく、日本軍の飛行機が、オアフ島の真珠湾とヒッカム、ホイラー空軍基地を爆撃しました。そして、30分もたないうちに米太平洋艦隊の戦力は、外海にいた航空母艦のエンタープライズ、レキシントン、サラトガを除き破壊されました。これによって、日本は、アメリカ、イギリスなどに対して宣戦をしたのです。アメリカにとって突然降りかかって来たようなこの太平洋戦争ですが、実は、真珠湾攻撃の数年前、すなわち



近代工業の原料が不足している日本が、資源の多い満州に目を向けた時から、戦争は始まっていたのです。中国への日本侵入は、1937年7月の日中武力衝突で幕が切って落とされました。中国における状況と、インドシナ方面での日本の“大東亜共栄圏”構想の展開に伴いアメリカ、イギリスをはじめ多くの国々が、日本の産業を圧迫しようと、日本の在外資産を凍結し、対日輸出停止を行っていました。これが、日本を東南アジアやインドネシア方面への経済拡張へと一層駆り立て、これらの地域にやはり経済的に関係していた西側諸国と日本が、真向から対立することになったのです。

こうして、1941年までに、日本は内外の要因から徐々に侵略的方針に傾いていったと言ってもよいでしょう。そして最も手強い相手と見なしていたアメリカとの外交上の行詰まりから、とうとう真珠湾攻撃まで進んでしまいました。12月8日 米議会は、日本に対して宣戦。日本軍は、ウェーク、ガムなどの島々やフィリピンのイバ空軍基地を爆撃するとともに、タイ進駐、マレー上陸、香港進駐などを一斉に行ないました。12月10日 日本軍は、ガムを占領するとともに、フィリピンの北ルソン島に上陸しました。12月23日 日本軍は、ウェーク島を占領。12月24日 米極東軍総司令官マッカーサー大将はフィリピンのマニラから撤退し、バターン半島に立てこもりました。12月26日 日本軍は、香港を占領。



1942年（昭和17年）

1月2日 日本軍は、マニラ占領
1月7日 日本軍は、バターン半島の包囲攻撃を始め、コレキドール島で指揮をとるマッカーサーは、バターン半島を、日本軍のフィリピン侵入に対する米比共同防衛拠点として宣言しました。しかし、周辺のジャングル、沼地や山が物資の供給を困難にし、バターン防衛軍は、3ヶ月間、食料及び薬品等の不足で厳しい試練を経験するのでした。
2月1日 米海軍は、マーシャル諸島の日本軍基地に対して、空と海から攻撃を加えました。
2月15日 シンガポール陥落。
2月27日～28日 ジャワ（スラバヤ沖、バタビヤ沖）海戦では、真珠湾奇襲以来の最も大きな米海軍の損失となり、この方面における連合軍艦隊の喪失を招いたのでした。
3月8日 日本軍が、ニューギニアに上陸、ラエとサラモアを占領し、連合軍がオーストラリアを守るため最後まで防衛拠点として保ち続けたポートモレスビーに、脅威を与えました。
3月17日 6日前にフィリピンを脱出したマッカーサーが、オーストラリアに生還。ここで彼は「私は、舌境を切り抜けた。私はきっと戻って来る」との有名な言葉を残したのでした。
3月30日 マッカーサー大将は、西南太平洋方面（オーストラリア、東インド諸島の大部分及びフィリピン）最高司令官に、ニミッツ提督は、太平洋方面総司令官として指名を受けました。
4月9日 バターン半島陥落。米比軍捕虜は、日本の捕虜収容所までの60マイルを歩かされ、途中多数の死者を出しました。これは、“死の行進”と呼ばれています。
4月18日 ドーリットル中佐が率いるB-25爆撃機16機が、空母ホーネットから飛び立ち、東京、横浜、横須賀、神戸及び名古屋を爆撃しました。
5月7日 フィリピンにおけるマッカーサーの後任としてのウェインライト中將は、日本軍にコレキドールを明け渡し、指揮下の全米軍は降伏しました。

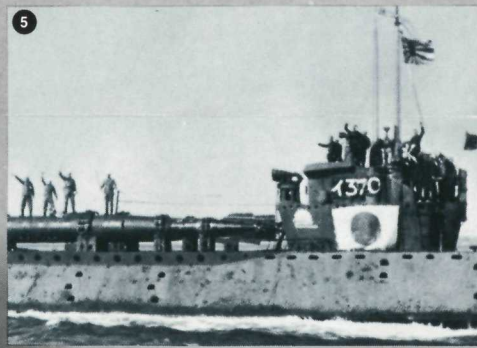
5月4～8日 珊瑚海海戦。日本の戦術的勝利、戦略的敗北と言われているこの海戦は、水上艦艇が互いに相手の姿を見ず、ひたすら航空機による攻防に終始する。世界戦史における最初の空母同士の戦いでした。
6月3～6日 ミッドウェイ海戦。これにより、攻撃用兵器としての空母の威力が認められ、日本海軍史上初めての大きな敗北でした。

6月7日 日本軍は、アリューシャン列島のアッツ、キスカ両島を占領しました。
7月22日 ニューギニア東部のババア半島の攻防戦が始まりました。日本軍は、北海岸のゴナとブナに上陸した後、南海岸のポートモレスビーも攻略するため、島中央のオーエンスタンレー山脈を突き進みました。以後数ヶ月間、オーストラリア及び米軍は、ポートモレスビー攻略のための日本側の作戦をすべて打ち砕き遂には日本軍をゴナとブナへ追いやりました。
8月7日 米海兵隊は、最初の米側の反撃としてソロモン諸島のガダルカナルに侵入しました。その後、米軍を島から追い払おうとする日本軍の作戦は、ことごとく失敗に終わりました。

8月8～9日 サガ島沖海戦（第1次ソロモン海戦）で日本海軍は、連合軍艦隊の巡洋艦4隻を沈めました。

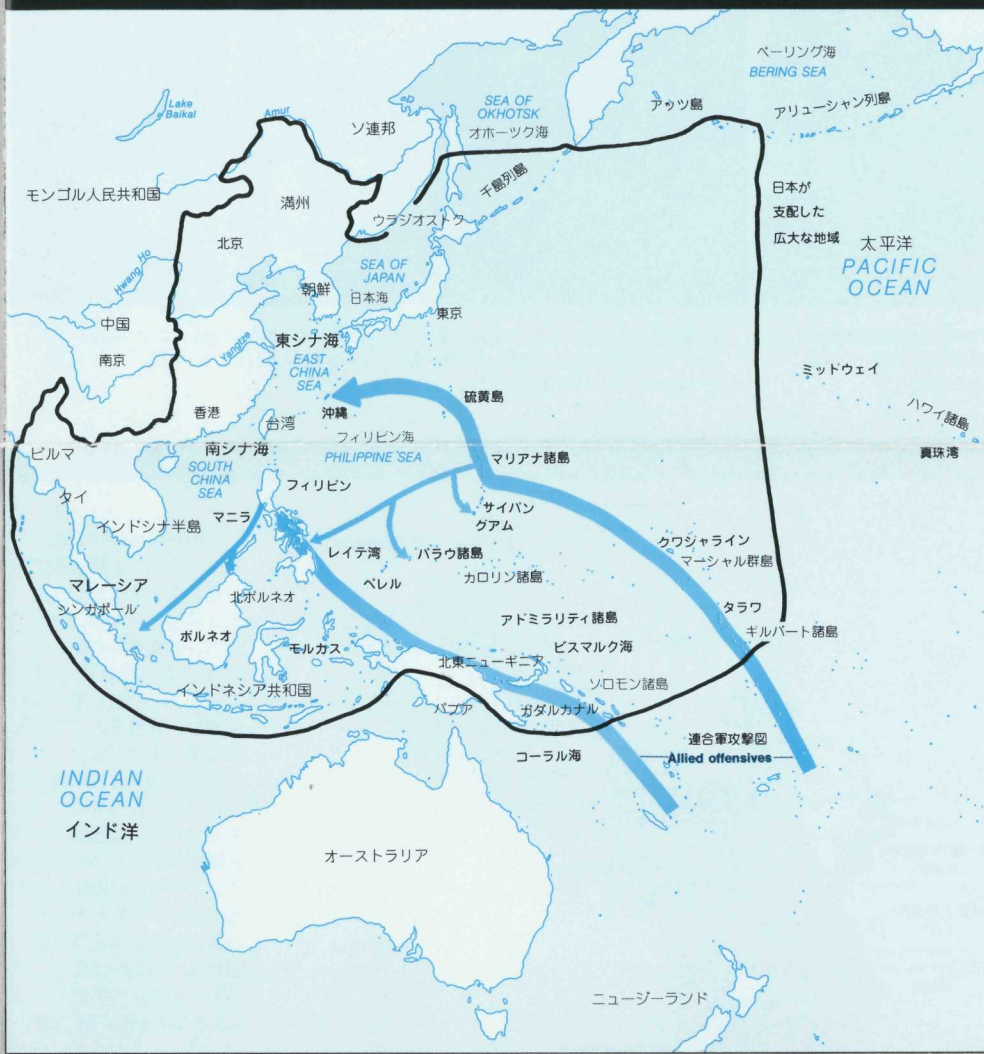


1 1941年12月8日、対日宣戦布告を議会に要求しているルースベルト大統領。
2 1944年12月、フィリピンで日本軍を撃退したあと、修理と供給のため、アンカレッジに戻る米機動部隊。
3 1945年、沖縄作戦の時、神風特攻機によって引き起こされた空母バンカーヒルの火災を必死に消火している乗組員。
4 1944年、出撃の準備をしている日本の神風特攻隊員。



5 1945年、硫黄島沖の米艦隊への攻撃に向かう1人乗り人間魚雷「回天」を運ぶ日本の潜水艦イ-370。
6 1944年、空母エンタープライズの甲板への着陸に失敗したヘルキャットのパイロットを助けるため、機体よしのぼる海軍将校。
7 1944年、サイパンの戦いにおいて、日本軍に向かって手りゅう弾を投げる米海兵隊員。
8 1945年9月2日、戦艦ミズリ甲板上で降伏文書に調印する海軍美術部参謀総長。

太平洋戦域 1941-45 (地図)



8月24日 東ソロモン諸島海戦で、空母エンタープライズおよびサラトガから発進した戦闘機の攻撃を受けた日本軍の空母1隻が沈没しました。
11月12～15日 ガダルカナル周辺における海戦によって米側が、当方面の制海権を握り、日本軍のガダルカナル島への増援を妨げ、米軍による同島の最終的獲得を可能ならしめました。

1943年（昭和18年）

1月10日 米軍は、ガダルカナルの日本軍を一掃するための最後の攻撃を始め、2月9日までに、この島における日本軍の組織的抵抗は終了しました。この米側の勝利はソロモン諸島における他の連合軍の勝利への道を開いた



太平洋戦争
国立歴史公園 / グアム

のでした。
1月22日 ババア半島での攻防戦は、陸上における日本側の最初の決定的敗北でほぼ終りました。
3月2～3日 ビスマルク海戦。米軍の航空機が、ニューギニアのラエ、サラモアに向かう日本の輸送船団16隻のほとんどを沈めました。この攻撃では、低空から爆弾を水面に跳躍させて船腹に命中させる“スキップ・ボミング”が絶大な効果を示しました。
3月26日 勝負つかずのコマンドスキー諸島沖海戦が、西アリューシャン諸島の再征服につながりました。8月中旬までは、日本軍はアッツ、キスカ両島から撤退せざるを得なくなりしました。
8月5日 連合軍はニューギニア島ムンダ飛行場



の占領により、ラバウルの日本空軍および海軍設備を爆撃する基地を得ました。
8月25日 米軍がソロモン諸島ニューギニアを侵略。日本軍によるガダルカナル島への脅威は一掃されました。
11月20日 マーシャル、ギルバート、カロリン及びマリアナの島々を奪還するための、ニミッツ提督が指揮する中部太平洋攻略作戦が、開始されました。まず、マキンとタラワをそれぞれ陸軍と海兵隊が攻撃しました。
12月26日 西ソロモン・ニューギニア及びフィリピンを確保するための、マッカーサー大将が指揮する西南太平洋攻略作戦も開始されました。まず、ビスマルク諸島の中で最も大きい島であるニューブリテン島に上陸しました。

1944年（昭和19年）

1月31日～2月4日 米軍は、マーシャル諸島のロイ、ナムール島及びケゼリン環礁を占領しました。
2月29日～3月7日 マッカーサーは、東部ニューギニア北方のアドミラルティ諸島を手中に収めることによって、日本軍を脅かしました。
6月15日 中国に基地を持つB-29の部隊が、日本本土を初めて爆撃しました。また、米軍はサイパンに上陸。
6月17～19日 フィリピン海海戦“マリアナの七面鳥射ち”（マリアナ沖海戦）。日本側は、艦上機のほとんどが米側迎撃機と対空砲火で打ち落とされました。
7月21日 米軍ガムに上陸。
7月24日 米軍、テニアンに上陸。
9月15日 米軍、モロタイとベリリューに上陸。
10月20日 米軍、フィリピンのレイテ島に上陸。
10月23～25日 レイテ湾海戦（フィリピン沖海戦）、戦争史における最大で実質的に最後の大海戦でした。この戦いで、日本海軍は、ほぼ壊滅しました。
11月24日 日本本土への本格的攻撃は、この日、マリアナ諸島の基地からのB-29が東京を爆撃することで始まりしました。

1945年（昭和20年）

1月9日～2月23日 米軍は、ルソン島に上陸、マニラを占領し、北フィリピンを奪還しました。



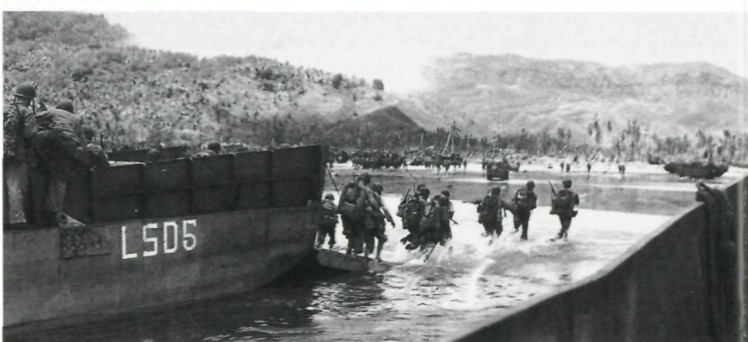
2月19日～3月17日 米海兵隊は、硫黄島に上陸し、苦しい戦いの後、征服しました。
3月9～10日 東京は、B-29の焼夷弾爆撃で灰と化しその後、多くの都市も攻撃を受けました。
3月19日～6月21日 琉球諸島戦で米軍空母から発進した戦闘機が、日本軍の戦艦や琉球諸島の飛行場に大規模な攻撃を加えました。
4月1～6月21日 米軍は、沖縄に上陸。日本側は、必死に抵抗し、日米双方に多数の死傷者を出しましたが、島は、遂にアメリカの手に渡りました。
8月6日 広島に原子爆弾が投下され、その3日後、長崎にも投下されました。
8月14日 日本は、連合軍の無条件降伏勧告（ポツダム宣言）を受諾しました。
9月2日 日本は降伏文書に正式調印しました。

太平洋戦争

国立公園局
アメリカ合衆国 内務省

グアム

グアム作戦は「勇猛果敢に実行され、重要なアメリカの領土の奪還と忠誠な人々の解放をもたらした。見事だった」
チェスター・ニミッツ提督



写真説明：田植えをするチャモロ（グアム島民）
 チャモロと朝鮮人労働者は食料の生産や臨時滑走路を構築するグアム占領日本軍司令部総督、

写真説明：戦火中、アサン（朝井）海岸から上陸する第3海兵師団の突撃隊。目標は、海岸線を攻めながらただちに高台を占領し、東方と

写真説明：戦闘中、丸太の背後に身を潜めている海兵隊員たち=1944年7月

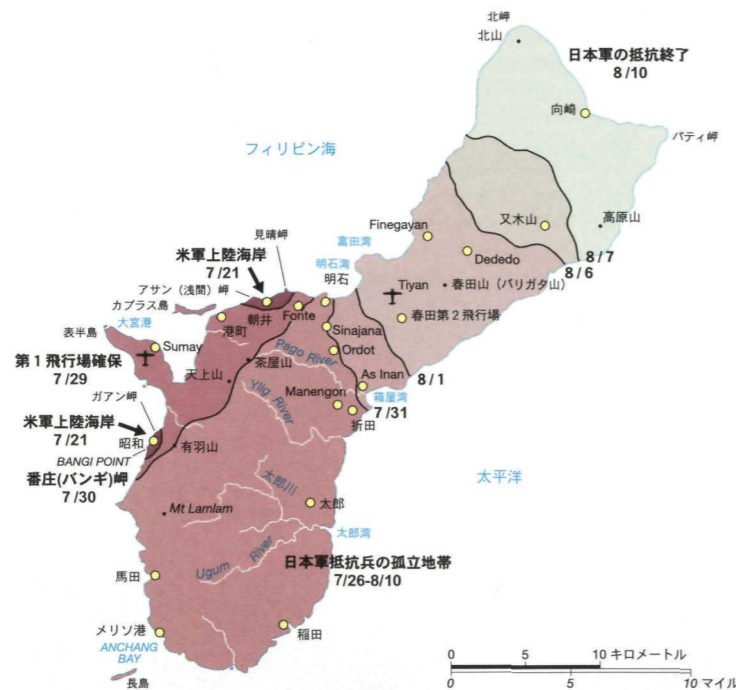
写真説明：荒廃したアガナ（現アガニヤ）を見守る米軍第77歩兵師団の戦車

写真説明：オロテ半島（表半島）を攻撃中の第305歩兵連隊を155ミリ曲射砲で援護している第3砲兵隊の海兵たち=1944年7月22から24日

グアム 1941 | 1944 侵攻と解放

日本軍によるグアム侵攻作戦は、サイパンにいた急降下爆撃機がグアム島の襲撃を開始したのを機に始まり、ハワイの真珠湾攻撃から、わずか一週間ほど後のことでした。当時、グアムにいた米国の守備は海兵隊員153人、海軍兵271人、民間労働者134人にチャモロ（グアム島民）ら島の警備兵247人と希薄なもので、兵器もわずかな30ミリ機関砲など小型の武器に頼るのみでした。2日間にわたり日本軍の猛攻撃は続き、12月10日未明、サイパン駐屯の第5守備隊から日本海軍の海軍陸戦隊400人がアガナ湾のダウンガ海岸から上陸を開始。同時に南海支隊として知られる日本陸軍の一隊がアボルガン、タモン、トグチャ、アガットほか各湾岸から侵攻しました。島の警備兵はアガナ（現アガニヤ）のスペイン広場では果敢にこれまでに、グアム島知事の米海軍総督ジョージ・J・マックミリンは自軍の敗北を悟り、事実上、グアムは日本軍に陥落しました。

グアム島民は2年半の間、日本の占領下で苦難を強いられることになりました。最初の4ヶ月間は日本陸軍が統治権を握り、アガナ（明石）市の学校や政府の



左の地図は1944年の米軍によるグアム上陸奪還過程を示しています。これは、1942年から44年にかけて実行された米軍によるほかの多くの上陸作戦と同じパターンで、空と海からの砲撃、陸海空軍共同による強襲、上陸、塹壕（ざんごう）で防備された日本軍とのジャングルでの戦いと続きました。問題は、交戦が終結するまでにかかる時間と、どのくらいの犠牲者を出すかということでした。地図上に見られる黒い線と日付は、米軍が占領したところと、日本軍の防衛を一掃したところを示しています。

公園見学

太平洋戦争国立歴史公園の設立に伴って、米国の国立公園事業は太平洋圏まで拡大しました。1978年8月、「第二次世界大戦の太平洋戦線に参加したすべての人々の勇姿と犠牲を記録にとどめるとともに、グアム島の持つ優れた自然や景観、歴史的価値と史跡を保護するために」、同公園が設立されました。ほかの太平洋圏の島々と同様、グアムには1944年の米軍による島の奪還など、第二次大戦にまつわる史跡がたくさんあります。公園は7つの地区から成り、各地区とも、フィリピン海に面した島の西側に位置するアサン、ピティ、アガット村の中、あるいは隣接したところにあります。



写真説明：太平洋戦争国立歴史公園には、第二次世界大戦にまつわるたくさんの遺物があります。左の写真はピティ地区で見られる日本軍の海岸砲。右はアガット地区で見られる1944年7月上陸時に沖合で沈んだ米軍の上陸用船艇。

強いれた日本軍の防衛設備などが残されています。

アサン内陸地区 = Asan Inland Unit
 この地区はマリン・ドライブ（1号線）を挟み、アサン海岸地区のちょうど反対側に位置します。米上陸軍が日本軍の激しい抵抗にあった丘の中腹あたりです。現在は、ハイキングをするのも困難なほど、深いジャングルと背の高い草で覆われています。

アサン海岸の展望
 6号線沿いには、第二次世界大戦中に島で命を落とした米兵と島民をたたえた記念庭園があり、強制労働や負傷、強制収容など戦時下の苦難に耐えた島民らの名前とともに、壁に名前が刻まれています。また、日本軍の侵攻から米軍による島の奪還まで、島のたどった軌跡が描かれた銅製のパネルがあります。この地点から上陸海岸を一望することができます。

ピティ（港町）地区 = Piti Guns Unit
 ピティ村の裏側にあり、急峻な坂を登って約400メートルほど進んだところに日本軍の3基の大きな海岸防衛砲が残されています。

チャチャオ山（茶屋山）／テンホ山（天上山）地区 = Mt. Chaochao / Mt. Tenjo Unit
 テンホ山とチャチャオ山の稜線にあるこの地区は、アブラ港

（大宮港）やオロテ半島（表半島）など、周辺地域の展望が良好。日本軍もここから米軍のアサン海岸上陸を目撃したといわれています。歴史的残存物には、たこ壺壕や第一次世界大戦当時の米軍の砲台などがあります。

アガット（昭和）地区 = Agat Unit
 南側の米軍上陸地点に当たるこの地区では、米軍第1臨時海兵旅団と第77歩兵師団の第305連隊が日本軍の歩兵第38連隊と交戦したところで、アパカ岬（Apaca Point）、ガアン岬（Ga'an Point）、バンギ島（Bang Island）には、洞窟、掩蔽（えんぺい）壕のほか、兵舎便所の跡や薬箱などが残されています。海岸沿いと沖合いは比較的良好な状態で残されているため、1944年当時の様子が良くうかがえます。海底には米軍の兵器の破片が沈んだまま残されています。

アリファン山（有羽山）地区 = Mt. Alifan Unit
 元日本軍駐屯地で、地表の爆撃跡、たこ壺壕、塹壕（ざんごう）が残るこの地区では、米海兵隊と日本軍守備隊の激しい戦闘が繰り広げられました。未開発地域のため、歩くには不便なところです。

フォント・プラトー（本台山）地区 = Fonte Plateau Unit
 元日本海軍コミュニケーション・センター。現在整備中で一般公開はされていません。

グアムの気候 気をつける点

穏かい気候やターコイズ色の海など、グアムの遺産が訪れる人を魅了します。つり、ハイキング、ピクニック、スノーケリングやダイビングなどは島の各地で楽しむことができます。年間平均気温は27℃、水温も27.2℃です。5月から11月までは、高温多湿な雨季。11月から4月までは少し涼しくなり、熱帯貿易風が心地よい乾季になります。台風はしばしば雨季に襲来しますが、事前に予告があり避難する時間は十分あるので心配は要りません。

センター内のインフォメーション センターで確認してください。

公園内の建物や戦時遺品などは50年以上経ったもので非常にもろくなっています。たこ壺壕、塹壕（ざんごう）など、地表のものを乱さないようにしてください。また、海底に沈んでいる史的遺物や自然のものは法律によって保護されています。動かし、傷つけたりしないでください。公園の一部には、私有地があります。個人の所有権を侵害しないよう、私有地は通行しないでください。私有地かどうかわからない場合には、ビジター

詳細は...
 Superintendent
 115 Marine Dr. Haloda Bldg.
 Piti, GU 96915

最重要事項
 海岸や沖合いで武器や爆弾を見つけたら、触れたり、動かしたりしないでください。爆発する

